

●上水・用水・再生水・水質評価 (3) (2-F-09-1～1-F-10-2)

本セッションでは、1,3-ジクロロプロペン、多環芳香族炭化水素、プロピレングリコール、かび臭物質、蛍光性有機物、ニトロソジメチルアミン等、微量有害物の環境挙動、環境への影響、各種処理による処理性についての発表がなされた。

2-F-09-1 は、土壌薫蒸剤 1,3-ジクロロプロペンの塩素処理による分解生成物の変異原性を、想定される物質の変異原性によって説明することを試みた発表である。結果、1,3 ジクロロアセトンの寄与が大きく、検討の必要性が示唆された。2-F-09-2 は、水環境において PAHs (多環芳香族炭化水素) が牡蠣により除去されることを実証的に示したもので、流動の影響やその機構に関する質問がなされた。2-F-09-3 は、林野火災用泡消火剤の主成分プロピレングリコールが、活性汚泥を起源とする細菌群の酸素呼吸速度にどう影響するか、実験とモデル計算で検討を行った。今後の展開が期待される。2-F-09-4 は、カビ臭に関する問い合わせのある事業体による、取水地上流側の河床付着物のカビ臭物質を実態調査の報告であった。フロアから、カビ臭物質の放出源および出水時湿潤箇所への検討が要望された。2-F-10-1 は、河川水の溶存有機物の性状を詳細にする手掛かりとして、蛍光分析を試みたもので、出水時の変化より有機物の質的变化が見られることを明らかにした。今後の詳細な検討が望まれる。2-F-10-2 は NDMA (N-ニトロソジメチルアミン) の河川における調査と生成実験を行ったもので、実際の河川における NDMA 濃度の変化が生々しく報告された。NDMA は特定の事業場において非意図的に生成されているとのことで、今後の注意がますます必要であるとのことであった。

以上、このセッションは微量有害物等に関する話題が多かったが、一方でそのアプローチやフィールドは異なるものであった。それにも関わらず、座長として用意していた質問を披露する時間が無いほど、フロアからの活発な議論が見られた発表もあり、この分野への関心の高さがうかがわれた。今後もさらなる検討とその成果発表を望みたい。

(立命館大学・理工 神子 直之)